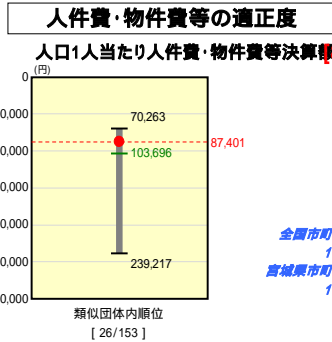
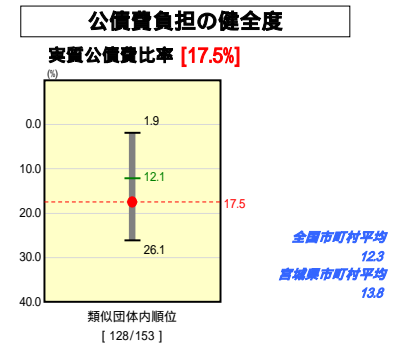
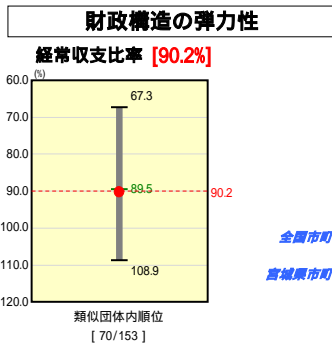
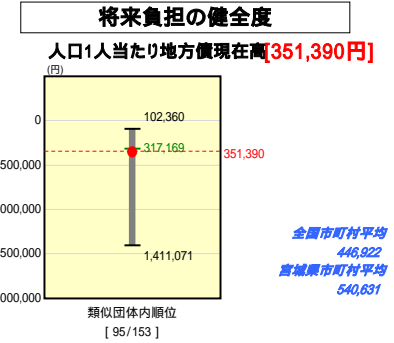
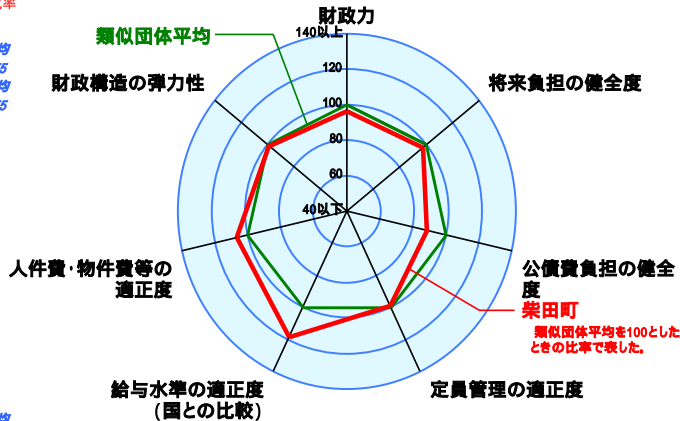
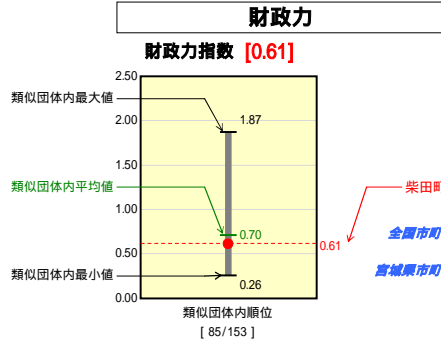


# 市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

## 宮城県 柴田町

|      |            |                 |
|------|------------|-----------------|
| 人口   | 38,874     | 人(H20.3.31現在)   |
| 面積   | 53.98      | km <sup>2</sup> |
| 歳入総額 | 10,082,063 | 千円              |
| 歳出総額 | 9,995,465  | 千円              |
|      | 64,298     | 千円              |

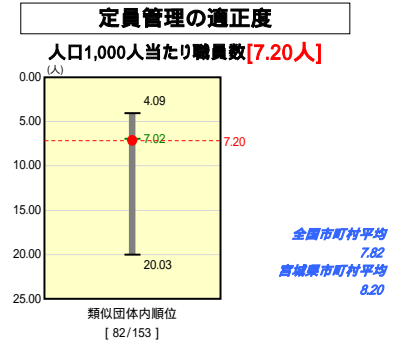
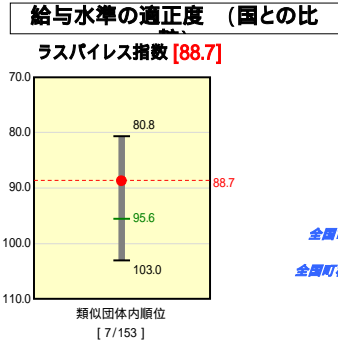


**給与水準の適正度 (国との比較)**

類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体而言う。

平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。

ラスバイス指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。



人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

### 分析欄

**財政力指数**  
近年0.6を維持していますが、類似団体平均から若干低めに推移しているのが現状である。町税については引き続き安定した税収を確保しているが、滞納額の圧縮については更なる対策を講じていく必要がある。

**経常収支比率**  
平成19年度から実施した財政再建プランによる職員給与の5%削減などによる人件費の削減や新規採用職員の抑制など、経常経費削減により、前年度から4.6ポイント減少し、ほぼ類似団体平均の数値となっている。今後についても、事務事業の見直しを徹底し、経常経費の削減に努める。

**人口1人当たり人件費・物件費等決算額**  
類似団体平均と比較して、人件費・物件費等の適正度が低いのは、人件費の削減が主な要因であるが、近年施設の老朽化に伴う維持補修費の負担が増加傾向にあることから、効果的な財政計画に基づいた事業を今後とも継続してことが必要である。

**ラスバイス指数**  
当該数値88.7はH19.4.1現在の数値なので、職員給与5%カット分が反映されている。(H18.4.1現在では92.4)引き続き地域の民間企業の平均給与との状況を踏まえるなどで給与の適正化に努める。

**人口1人当たりの地方債現在高**  
過去の大型事業(新築、大沼通線整備、公営住宅整備等)の実施により町債残高が類似団体平均を上回っているのが現状であるが、今後の新規借付額を抑制し、残高縮小に努める。

**実質公債費比率**  
過去の大型事業による公債費や公共用地の先行取得等(債務負担行為)による準公債費がピークを迎え、下水道特別会計への繰出金、広域行政事務組合、みやぎ県南中核病院への負担金のうち公債費に充当した額が大きいため、昨年から3.5ポイント減少したものの、17.5%と依然高い数値となっている。債務負担行為に係る準公債費は平成19年度以降大幅に減額するが、公債費は平成22年度までは17億円台が続く見込みであり、今後とも起債依存型の事業については、見直しを図るとともに、新規発行の抑制に努める。

**人口1,000人当たりの職員数**  
定員管理計画、財政再建プランに基づいた退職職員の不補充などによる定員削減を図り、類似団体平均並みとなっており、今後も事業実施の効果を順守し、より適切な定員管理に努める。